

リニアインパクト最大化プロジェクト ~2037年に三重県が変わります!~

リニアで繋がる三重の絆

この活動では、早ければ2037年に全線開業が予定されているJR東海のリニア中央新幹線によって、三重県にどのような社会的・経済的効果(インパクト)がもたらされるのかなどを分析します。三重県庁交通政策課の方々と共に協力して、このリニアインパクトを最大化できるような様々な活動を行っています。

* TEAM DATA *

メンバー数 : 10名
活動場所 : 伊勢市
実施主体 : 三重県地域連携部交通政策課
担当教員 : 笠原 正嗣 (現代日本社会学部)
活動年度 : R03, R04

こんな人におすすめ!

- ・鉄道が好き
- ・観光が好き
- ・地域の魅力の再発見をしたい
- ・地元の魅力を発信したい
- ・三重県規模の活動をしたい

月別活動

- (4月) イオンモール津南展示イベント参加
(5月) CLL活動説明会参加
(6月) ドライブプラン作成
(7月) 亀山視察検討開始
(10月) 亀山視察前会議



- (11月) 亀山視察



- (1月) 亀山視察振り返り&来年度活動案検討会
(2月) リニア岐阜県駅(仮称)建設現場視察検討



1年の活動まとめ・考察 (成果と課題)

この活動の現在の所までの成果としては、主に3つのが挙げられます。

1つ目の成果は、イオンモール津南での三重県交通政策イベントへの参加です。この活動では、県の方々と協力してリニアの広報活動を行ったり、クイズイベントを行ったり、リニアのジオラマや県内鉄道各社の模型の展示等を行いました。

2つ目の成果は、JAF主催のドライブプランコンテストに応募したことです。この活動では、新駅設置予定の亀山市を起点として、県内の観光スポットを車で巡るドライブプランを作成しました。結果は落選という残念な形で終わってしまいましたが、県内の観光スポットを自分たちで調べ、まとめることにより、今まで自分たちが訪れたことの無かった観光スポットを知ることができ、大変勉強になりました。

3つ目の成果は、リニア新駅設置予定である亀山市を訪問し新駅設置予定候補地の3つの場所を視察しました。この活動では、新駅候補地の全ての場所を、亀山市の担当者の方の案内の下に視察を行いました。メンバーのほとんどが亀山市を訪れたことがあまりなく、同地域の魅力を理解し今後の活動へつなげることのできる視察であったと思います。また、担当者の方と直接お話しすることができ、亀山市の様々な政策について理解を深めることができました。

今後の課題としては、岐阜県中津川市のリニア駅建設予定地への視察と大阪でのイベントへの参加を予定しているため、計画内容の策定と勉強会の実施を検討しています。

また、県内の方々にリニアの有効性、つまりインパクトをもっと知っていただくことが重要であると考えているため、今後様々な広報活動や発信方法を検討して行く必要があると思っています。

活動を通して学んだこと

この活動を通して学んだことは、大きく分けて2つあります。

1つ目は、本年度で2年目となるこの活動ですが、本年度から学生主体の運営となり、事項書の作成、当日の司会、議事録の作成等、社会に出てから役に立つより実践的な会議運営を行っているため大変勉強になりました。また、県内各地が活動範囲でもあるため、多くの方々と関わることができ人と関わる重要性や楽しさなどを学ぶことができました。

2つ目は、リニアについての話し合いが具体化したことで、建設予定地の自治体の現状や課題など、今後の活動に必要な情報や課題を再発見することができました。

実施主体からのコメント

三重県地域連携部交通政策課 ご担当者様

令和3年度からステップアップし、活動メンバーの皆さんが司会進行や事項書・議事録の作成等を行い、より主体的に取り組んでいただきました。

活動にあたっては目的や目標をメンバー間で整理・共有したうえで、リニア開業時の三重県や亀山市をより深く想像し、リニアインパクト最大化に向けた課題やその解決策のアイデア等を提案いただきました。

候補地(亀山市)視察の行程は、メンバーが話し合って決定しました。視察時間も限られるため、行程から外さざるを得ない箇所もありました。実際に訪れることで、リニアインパクト最大化にも重要な役割を担う「鉄道・バス」の現状や課題を考えるきっかけとすることができました。

リニア開業に向けて、活動成果を継承し、取組の継続・発展を行っていきましょう。



担当教員より

現代日本社会学部 笠原 正嗣

活動も2年目に入り、候補地(亀山市)見学の実施や市役所担当者とのディスカッションなど実践的な学びに発展できたと思います。ただ、リニアのインパクト(社会・経済的効果)は奥深く、まだまだ学ぶべき点が多く存在します。建設計画が具体化するほど課題が多く見えてきます。メンバー間での議論をさらに深めながら、より主体的に活動を発展させて欲しいと思います。

ホップ(1年目)、ステップ(2年目である本年度)を経て、来年度は「ジャンプ」の段階となります。新たな若いメンバーを迎え入れることで取組を継続・発展させていきましょう。

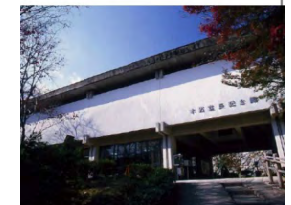
成果物 / 制作物

<https://jafnavi.jp/web/>



コースID : 24111479

みえ学生ドライブスタンプラリー
ーコンテスト2022「偉人マル3
重!」



本居重長記念館 外観